

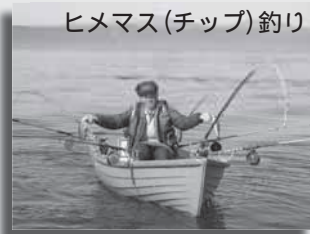


施策の柱 1 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信

水清まつり



そのほか、支笏湖の温泉を安定的に確保するための新たな源泉の開発、大切な資源であるヒメマス(チップ)ふ化場の整備などに取り組めます。



また、最近では少人数での旅行が増え、目的も多様化しています。その要求に応えるため、地域の魅力を取り入れた、地元発の旅行商品づくりと、そのPR活動を行う担い手を育成します。あわせて、観光客にわかりやすく説明ができるガイドの育成や外国語の案内表示など、海外から訪れる方が楽しめる案内体制づくりを進めます。

支 支笏湖と周辺に広がる手つかずの自然は大切な観光資源です。国立公園として保護されてきた自然景観や温泉などが空港から比較的近くにあるなど、恵まれた条件を生かし、この地域ならではの多彩な体験メニューづくりと商品化に取り組めます。



施策の柱 2 観光資源の発掘と有効活用

見る、食べる、体験する。
たくさんの観光施設を周遊してほしい。

おおた やすひろ
太田 康裕 さん

市内でゴルフ場の支配人を務める太田さん。千歳の観光や宿泊、商業施設、バス事業者などが自由に意見交換することを目的に集まる「千歳の観光を考える会」が毎月開かれていて、太田さんもこの会に参加しています。

夏と比較して冬は観光客が減ります。考える会で出た「冬にもたくさんの方に来ていただき、少しでも長く千歳に滞在してもらいたい」という声をきっかけに、2年前の冬、市内の5施設と空港、千歳駅を1時間程度で結ぶ無料の周遊バスを運行しました。

「冬道の運転に慣れない道外や海外の方に好評でした」と太田さん。2年目となった昨年度の利用者は、1年目の2倍以上に増えたそうです。

バスが周遊することで、市内にたくさんの施設があることを知ってもらえることも利点です。「ひとつの大きな目的があって訪れる方も、『見る・食べる・体験する』など、観光の目的はひとつではありません。千歳は空港の近くにさまざまな観光の目的を満たすことのできる施設がたくさんあって便利なまちです。この魅力を知ってもらうことで、再び訪れていただくことにもつながります」と話します。



「観光のまちとして賑わいをつくるためには、違った特徴を持つそれぞれの事業者が協力することが大切です。これからもさまざまな取り組みを続けていきます」と力強く語ってくれました。

市 街地地区・農村地区では、新たな観光資源の発掘を進めます。また、すでに知られている施設については、さらなる魅力の向上に取り組めます。

また、ヒメマス(チップ)やハスカップなど、千歳ならではの食材を活用した新たなメニューの開発とPRに取り組めます。



ハスカップの実